

「今月の1枚」



写真1 リョウブ全体

夏に白い花を咲かせる落葉広葉樹。少し山に登ればどこにでもあります、花がないと今ひとつ存在感がありません。

まだ、試したことはないですが、若芽はご飯に炊き込んで食べられるようです。



写真2 リョウブの花

穂の下から上に向かって咲いていきます。下の方は果実ができつつありますが、上の方はまだ

つぼみです。果実（朔果）は成熟すると割れて、中からとても小さい種子が出てきて、風によって、散布されます。



写真3 リョウブの樹皮

八面山周辺はニホンジカが多いため、何度も樹皮がはがされ（食べられ）、そのあと組織が再生してこのような模様になります（色の明るい部分が再生した部分）。

リョウブ（リョウブ科） *Clethra barbinervis*

（写真・文：酒井 敦 2014年8月13日 高知県四万十町八面山にて撮影）

（No.248 2014.8.27 掲載）